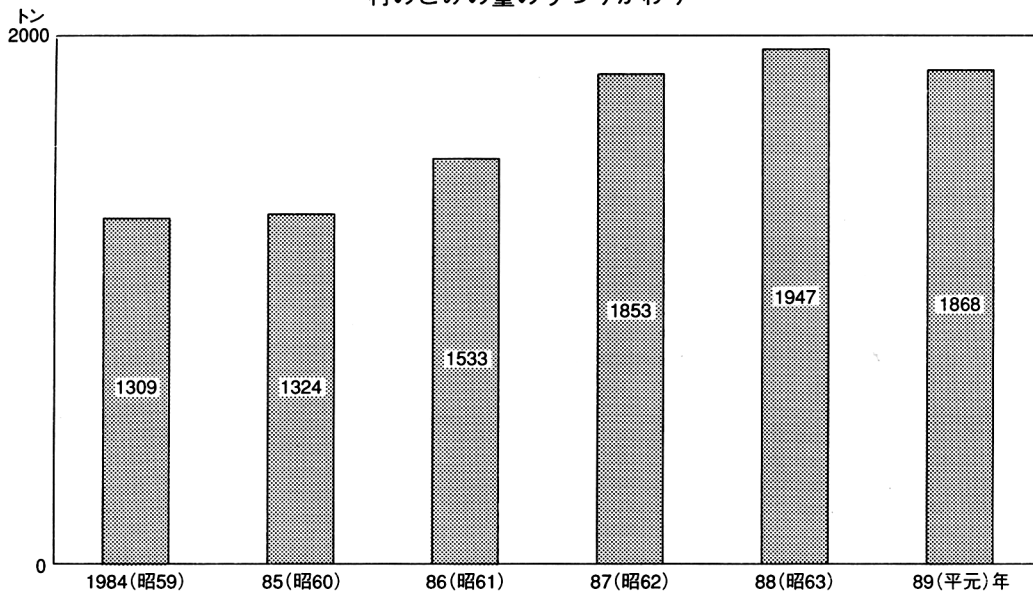


村のごみの量のうつりかわり



[安達地方広域行政組合資料]

しかし、住む人がふえたり、生活がゆたかになったりしてきたことで、年々、家など

から出されるごみの量がふえてきました。そして、それにつれて、ごみのしまつにかかるお金もたいへん大きくなり、これまでの方法では、ごみのしまつが、たいへんむずかしくなってきました。

ごみをへらすどりよく、それまで、ごみとしてしまつされてきた物の中には、原料げんりょうとして、何回もくり返し利用できる物(資源しげん)がまぎっていました。たとえば、もやされていた紙や、うめられていた空きびんです。これらはみな、再びまた、新しい紙やびんをつくることができます。大切な資源です。ですから、ごみの中から、そういった再利用さいりよう(リサイクル)できる物を取り出していけば、ごみの量をへらすことができます。